

## 令和6年度花巻市大迫地域協議会（第1回）会議録

### 1 会議の日時及び場所

- (1) 日 時 令和6年4月25日（木）午前10時～午前11時  
 (2) 場 所 大迫総合支所 2階 大会議室

### 2 出席委員（出席11名、欠席4名）

区分	団体及び役職名	氏名	住所	出欠
公共的 団体 から 推薦 された 者	花巻農業協同組合 女性部大迫支部長	菊 月 美智子	亀ヶ森	○
	花巻市森林組合 大迫事業センター所長	高 橋 純 一	外川目	欠席
	花巻商工会議所 大迫支部副会長	佐々木 行 雄	外川目	○
	花巻市社会福祉協議会 大迫支部長	川 村 均	大 迫	○
	花巻市大迫地域区長会 会長	熊 谷 仁 見	大 迫	○
	大迫地区コミュニティ振興会 会長	菊 池 忠 久	大 迫	○
	内川目コミュニティ会議 会長	伊 藤 誠	内川目	欠席
	外川目地区コミュニティ会議 会長	佐々木 政 行	外川目	○
(2) 学識経験を有する者	亀ヶ森地区コミュニティ会議 会長	藤 田 哲 司	亀ヶ森	欠席
		瀬 川 行 夫	大 迫	○
		佐々木 和 宏	大 迫	○
		小 川 富 士	大 迫	○
		菊 池 和 子	大 迫	○
		瀬 川 和 広	大 迫	欠席
(3) 公募による者		清 水 正 子	大 迫	○
		応 募 な し	—	—

花巻市 所属	役職名	氏名	出欠
総合政策部	部長	岩 間 裕 子	○
秘書政策課	課長	菊 池 司	○
秘書政策課	主査	菊 池 遼	○
大迫総合支所	支所長	高 橋 哲 也	○
地域振興課	地域振興課長	佐 藤 充	○
市民サービス課	市民サービス課長	黒 沼 寿 夫	○
地域振興課	課長補佐（地域づくり担当）	小 松 博 幸	○
地域振興課	課長補佐（産業担当）	神 谷 竜 也	欠席
地域振興課	課長補佐（建設担当）兼建設係長	駿 河 世 紀	○
地域振興課	地域支援監	中 村 陽 一	欠席
市民サービス課	課長補佐	佐 藤 英 進	○
地域振興課	係長	伊 藤 浩 之	欠席

・傍聴者 なし

### 3 議 題（説明事項）

花巻市過疎地域持続的発展計画の変更（案）について（諮問）

### 4 議事の概要

（1）開 会 （地域振興課長）

（2）あいさつ （大迫地域協議会長）

（3）説明及び審議 議長：熊谷仁見会長

①花巻市過疎地域持続的発展計画の変更（案）について（諮問）

総合政策部秘書政策課課長より資料の説明

（説明：秘書政策課課長 他）

②その他

なし

主な質疑の内容は、次のとおり。

主な質疑応答は、以下のとおり。

#### （佐藤地域振興課長）

それでは会議を進めてまいりたいと思います。

初めに本日の会議について、高橋純一議員、瀬川和宏委員、藤田哲司委員、伊藤誠委員から、出席できない旨の連絡がございましたのでお知らせいたします。

委員 15 名中 11 名、過半数の出席がありますので、花巻市地域自治区設置条例第 9 条第 2 項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

また、議事録作成のため録音しておりますことから、ご発言の際はマイクを使用お使いくださるようお願い申し上げます。

それでは、ただいまから令和 6 年度第 1 回花巻市大迫地域協議会を開会いたします。

開会にあたり、熊谷会長よりご挨拶申し上げます。

#### （熊谷会長）

おはようございます。

令和 6 年度第 1 回会議にご参集いただきまして、感謝を申し上げます。

本日は、花巻市過疎地域持続的発展計画の変更案について、当局からの諮問が予定されてございます。

答申を受けまして、この場において意見をまとめていきたいと考えておりますので、よろしく願いをいたします。

限られた時間での会議ではございますが、よろしく願いを申し上げまして挨拶といたします。よろしくどうぞお願いいたします。

#### （佐藤地域振興課長）

ありがとうございました。

続いて本日の協議会に出席しております総合政策部の職員をご紹介します。出席者名簿をご覧ください。

初めに、岩間総合政策部長です。

総合政策部菊池秘書政策課長です。  
同じく秘書政策課企画調整係菊池主査です。

次に事務局職員を紹介します。

高橋大迫総合支所長です。

黒沼市民サービス課長です。

地域振興課小松課長補佐です。地域づくり担当です。

駿河課長補佐です。建設担当です。

神谷課長補佐は本日欠席しております。

次に中村地域支援監ですが本日欠席でございます。

市民サービス課佐藤課長補佐です。

最後に、私は大迫総合支所地域振興課長の佐藤です。よろしく願いいたします。

次に、本日の予定する議事の案件は、花巻市地域自治区設置条例第8条第2項第3項の規定に基づき、市長から大迫地域協議会が諮問を受けるものであります。  
議事に入る前に、花巻市長より諮問書の提出がございます。

(岩間総合政策部長より熊谷会長へ諮問書を手交)

**(佐藤地域振興課長)**

これより議事に入ります。

議長は、条例第9条第3項により会長が務めることとされておりますので、今後の進行は会長が務めます。よろしく願いします。

**(熊谷会長)**

それでは早速でございますが、次第の3議事に入ります。

花巻市過疎地域持続的発展計画の変更案について議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

**(佐藤地域振興課長)**

本案件に関しましては、先ほど花巻市長から諮問書の提出がございましたことから、会議において答申の内容を決定いただきます。

また、書面による答申を考えています。よろしく願いします。

それでは花巻市過疎地域持続的発展計画の変更案について、担当の総合政策部よりご説明いたします。

**(岩間総合政策部長)**

それでは総合政策部からご説明をさせていただきます。

まず本日の案件でございますけれども、花巻市過疎地域持続的発展計画の変更について皆様からご意見をいただきたいというものでございます。

具体的内容につきましては、秘書政策課の課長からご説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

**(菊池秘書政策課長)**

秘書政策課菊池と申します。それでは、私の方から説明させていただきます。  
恐れ入りますが、着座にてご説明させていただきます。

**(熊谷会長)**

ありがとうございました。

担当課からの説明が終わりました。

ここでご質問ご意見がある委員の方はご発言をいただきたいと思います。

**(菊池忠久委員)**

何点か質問させていただきます。

変更を見直したということで朱書きされていますが、例えば 23 ページ見ていただきまして、令和 6 から令和 7 年の朱書きの部分は基準値が令和 4 年になっております。それで上の方の令和 4 年と数字の差を見ますと、この上の方の黒書きの令和 4 年は実数なのか、それともこれが目標値なのかという点が一つ。

もう一つは、令和 4 年が目標値であれ実数であれ、新たに加えた令和 6 年からの目標において令和 4 年の基準値がどうして 102 という数字になって、かぶったのか。

また、例えば令和 4 年が 102 でありながら、上の方に令和 3 年が 72 という数字なのですが、目標値であればそれをどうして減数としたのか、その変更の理由を聞きたいです。

**(岩間総合政策部長)**

お答えいたします。

まず令和 3 年から令和 5 年の数値でございますが、これは目標値でございます。

基準値の平成 30 年と書いてあります数値は実績値になります。その実績に基づいて令和 3 年から令和 5 年の目標値を定めているということです。令和 6 年から令和 7 年につきましても考え方は同じになります。令和 4 年度の 102 が実績値で令和 6 年、令和 7 年が目標値となります。

その際にこの 102 という令和 4 年の実績値から令和 6 年、令和 7 年が減っているのはなぜかということでございますけれども、この令和 4 年が制度を利用した移住者が特に多かった年でございます。その前までの数年間の実績値の平均をとりますと、ほぼこの 60 という数字に近いということで、現在市といたしましてはこの 60 というところを、クリアしたい目標値ということで定めて実施していきたいと思っております。

**(熊谷会長)**

よろしいですか。

**(菊池忠久委員)**

平成 30 年と令和 4 年の部分は実績という事ですが、平成 30 年のときも実績値に対してさらに計画を令和 3 年、令和 4 年、令和 5 年と落としているわけですね。

先ほどの朱書きの説明はわかりました。令和 4 年の 102 というのが実績に基づいて、そのときはちょっと多かった過去の部分を勘案して、60 に減らしたということで、上の方の表を見ると、平成 30 が実績でありながらこの辺も特別な数字だったのか、そして令和 3 年から令和 5 年も目標として落としたという事は、同じ考え方をしたわけですか。

**（岩間総合政策部長）**

お答えいたします。まず平成30年に実績値として72と提示してございますけれども、計画の策定年度につきましては、令和3年がコロナ禍にあったというようなことがありまして、この実績値72というのが、そのままいけるものかどうかというところが、まだ具体的にはわからないという状況で、この際には実績値としては72でしたけれども、最低限の目標としては48～50を若干下回るくらいの人数を確保していきたいということでの目標値として設定したところでありまして、そのような事情があり実績値より下回る目標を掲げているというところでございます。

**（菊池忠久委員）**

状況わかりました。そうしますとさっき私が誤解したような形で、全て朱書きの部分の数字を見ると上の方の黒書きの部分は、当時の目標値をそのまま載せて計上する形になっているわけで、今回見直ししたわけですから、本来であれば令和4年の実績値を出すまで令和4年の黒字の部分は、ここも変更して実績を載せてくるべきではないかと。そうでないと全ての表に乖離が生じてしまうので、その部分はコメントしていただかないと分からない。多分目標値だという捉え方をしなきゃいけないってことですよね。その辺は過去の分の目標値は、結局そのまま目標のままだという考え方ですか。

**（菊池秘書政策課主査）**

お答えいたします。

こちらの過疎計画に載せる本文といたしまして、載せるべき項目というのが目標値ということになりまして、実績値を載せる様式にはなってございません。ですので、あくまでも基準値と目標が載っているということになりますのでご理解いただきますようお願いいたします。

**（熊谷会長）**

ありがとうございます。

その他ご質問ございませんか。

**（菊池忠久委員）**

32 ページ見ていただきまして、ここのところもそれぞれの黒塗りと見直しの部分の朱書きの表があるのですが、下の方に行く段階で例えば上の方の4行目あたりに森林経営計画策定面積素材生産量のような数字がございます。下の方に行きますとそれが消えていますよね。そして再造林率というのが新たに出てきていると、こういう計画目標を見ていく段階で、こういう項目が変わるといのはそれなりの理由があるかと思いますが、森林事業のこの部分が変わった何か理由があるのでしょうか。年度別計画を見ていくと、途中で変わっていますよね。これが上の部分の表と下の部分は同じような項目でいくのであれば数値的な形の流れと把握できますが、これを見ると森林の部分については、ガラッと表記が変わっているので、何があったのかということをお尋ねしたいです。

**（菊池秘書政策課主査）**

お答えいたします。

今回の変更に係る令和6年度、令和7年度の指標名および目標値の出典につきましては、第二次花巻市まちづくり総合計画前期アクションプランから出典しているものでござ

います。ですので、上の表の令和5年までは前計画の第3期中期プランから出典しているものでございますので、その前期アクションプラン策定の際に、この指標等を見直したものが、ここにも反映されているというものでございます。

#### (菊池忠久委員)

ただいまの回答は、総合計画の前期アクションプランに沿った形であって、項目を変えたというのは、分からないということで捉えていいのでしょうか。結局こちらの過疎計画の方は、整合性を持たせるのはわかります。でも、実際に森林関係の事業をやる方からしたら、年度が変わった時点で、この公的なデータが変わってしまうのは非常に影響が大きいのではないかと思います。今まで出てきたこの森林計画の策定面積とか素材生産量の数値が途中で消えてしまうということは、今後の将来的ないろんな計画を策定する段階で把握できなくなってしまう恐れがあると思います。ですから、その部分はやっぱり計上するのが過疎計画ではないかと思いますが如何でしょうか。

#### (岩間総合政策部長)

ご指摘ありがとうございます。

今回の第2次花巻市まちづくり総合計画における目標値を設定する際に、様々な分野での見直しが行われておりまして、例えば大きいものとそれまで国や県の統計に基づいて、市が行ってきた統計項目について、国や県がその統計項目自体を変えてしまったというようなことがあるものもございます。そういうものについては、統計に基づく資料がもう今後とれないということになりますので、そういう部分で見直しを行っているというようなものもございます。

その他に、ちょうどこの項目について、これが具体的にそれに該当するかどうかというところは、ちょっと本日資料を持ち合わせておりませんので、正確な回答になるかどうかわかりませんが、県として、例えば森林の計画について、経営計画の策定面積ということの主眼から、伐期を迎えて木を伐採し、その後の再生林をどう進めていくかという方向に、例えば県として森林に関する考え方が大きく変わり、再生林率として今後の目標を立てようというような話があった場合に、市としてそれに足並みを揃えて、目標値を変更するということがあったのではないかと考えているところでございます。この項目以外にも、商工業とか様々な分野で統計の取り方が国を含めて変わってきている部分がございますので、そこに足並みを揃えるというところで変えたところは多数ございますので、その点ご理解いただければと思います。

#### (熊谷会長)

菊池委員よろしいですか。

その他にご質問ございませんか。

#### (小川委員)

資料2の34ページにその他商業振興施設等整備事業とございますけれども、現時点で決まった段階のものでよろしいので、その内容を教えてください。

#### (菊池秘書政策課長)

今回追加したところでございます具体的な事業につきましては、大迫交流活性化センターの舞台設備の更新と、あとは同じく大迫交流活性化センターの空調設備の改修工事の

実施設計を6年度に行おうとするものであります。

**(小川委員)**

ありがとうございます。

大迫交流活性化センターに特化した整備事業ということで捉えてよろしいでしょうか。

**(菊池秘書政策課長)**

そのとおりでございます。

**(小川委員)**

商業振興となっておりますので、私としてはどういうふうを受け止めていいのか…。商業施設ですので差異を感じます。

**(菊池秘書政策課長)**

大迫交流活性化センターは皆様ご存知のとおり、コミュニティ会議や地域でも使われておりますので、そちらの目的も多いかと思いますが、一方で観光客なども多く訪れる場所ということで、その観点から商業施設としての区分となっております。

**(小川委員)**

私の中では大迫交流活性化センターは公共施設の区分に含まれるのではないかという認識であります。

**(菊池秘書政策課主査)**

お答えいたします。

この過疎計画の目的というのは、冒頭に説明しましたとおり、過疎債を発行して、この事業に充てるという目的がございます。その過疎債を発行して充てるための施設メニューといたしまして、この商業施設等ということの整備に充てられるという整理でございます。こちらの大迫交流活性化センターは、商業施設という整理をしまして、事業化をして、過疎債を充てるために計画に盛り込んだということでございます。

**(小川委員)**

商業施設という名称で今後はそういう捉え方でよろしいのですね。

**(菊池秘書政策課主査)**

そのとおりでありまして、そのために観光客も訪れる拠点施設という整理をいたしまして、商業施設と整理をしたところであります。

**(岩間総合政策部長)**

大迫交流活性化センターが、商業振興施設であるということではなくて、過疎債を充当するために、過疎計画上の施設分類としては、商業振興施設という括りの中に入れさせていただかないと、過疎債を発行することができなにご理解いただければと思います。そこに入れることが可能かということのお話の中で、先ほどお伝えしたように、観光客もいらっしゃるの、例えば神楽の公演や物販とかもあるという大きな括りの中で、商業振興施設ということで、過疎計画上は分類させていただいたということになります。

市の分類施設として、商業振興施設に分類しているというものではございません。あくまでも過疎計画上、そのように分類し、過疎債を充当していきたいという考えでございます。

#### (小川委員)

ありがとうございました。

それと 11 ページの人口の見通しで実績と推計についてございますが、これはもちろんあくまで推計でしょうけれども、独断と偏見で私はもっと緩やかではなくて、もう少し落ちてくるという認識を持たざるを得ないのですが、現在の状況を見れば 1 年 2 年と言わず相当落ちてくると思われませんが、如何でしょうか。

#### (菊池秘書政策課主査)

まずこちらの推計につきましては、昨年に人口ビジョンを改訂したものに掲載しているものをここにも掲載しているものです。人口ビジョンは令和 2 年 10 月 1 日現在の人口に基づいて、各地区の将来人口推計を行っております。

その推計では、厳しい数字とはなっていますが、各地域ではなく、花巻市全体として将来人口の目標というものを別に設定をしております。

今回の過疎計画の中で言いますと、19 ページに基本目標として人口に目標値を入れておりますが、この目標値は転出を抑えたり、転入を増やしたり、合計特殊出生率を上昇もしくは維持することで生存率をある程度予想して出している数字になります。人口が減少することを止めることは難しいと思っておりますので、より緩やかにすることで各施策に取り組んでいるものであります。もちろんこの過疎の計画に載っている事業も推進していくという認識のもと進めているものです。

#### (小川委員)

ありがとうございます。

今のお話で、人口の減少を止めることはできないとおっしゃいましたが、止めることができないではなくて、今後の目標のため起爆剤となって、もっと目を見張るような施策とか、そういう事業を持ってくるとか、他市町村では人口が微増しているところもあり、毎年何百人ずつ増えているそうで、それには目を見張るほどの施策をやっているんですね。しかも交通の便がいいのか、大きい市の近くでそういうところを考えている方々が、ベッドタウン的なもので増えているのか、いろいろな目的があって、移住者が増えています。その移住者を取り込むために、他の市町村では増えているからこそ歩みを止めないで、もっと発展しつつあるんですね。それに甘んじないんですね。もっともっと上を目指そうと、行政だけでなく市民を含んだ大規模な計画を立てて取り組んでいるところもあるんですね。

やはりもっと目を見張るようなことを考えなくては、減少を止めることはできない。このままでは、本当に大変なことになると思うんです。全て今までどおりというのは、衰退減少に繋がると思うんですね。本当に大きいことではなくても、みんなが必死で競争もやってらっしゃるんですね。それがなければ、絶対に止められないと、さっきおっしゃった言葉どおりに今後もなると思います。それは市民、行政と一緒に考えていかないといけないことだと思います。でも第 1 は、市民主導でなければいけないんですね。今までは行政主導みたいなのところがあったんですけど、住民があまりにも消極的で、そういう取り組みに尻込みしているか、積極性を持ってないか、いろんな情報を仕入れていな

いか、そういうことだと思います。ですから、現在のまま進行していくと、人口の減少は著しくなるんじゃないかと懸念しております。

**（熊谷会長）**

小川委員ただいまのお話は要望という形でよろしいですね。

回答はこの場では難しいと思いますので、今後の行政においてアクションプランとかいろいろ関連があると思いますので、今日は回答はなしということでよろしいですね。

**（小川委員）**

はい。

**（熊谷会長）**

ただいま小川委員の意見につきましては、持ち帰ってまたいろんなアクションプラン等で協議していただきたいし、大迫総合支所長さんにも一緒になって取り組んでいただきたいとお願ひいたします。

他にご質問あれば受けたいと思います。

**（清水委員）**

私も小川さんのように要望になるかもしれませんが、せっかく大迫交流活性化センターの改修ということでやっていただけるのは大変嬉しいことだと思っておりますので、先ほどから申しあげられているとおり、大迫交流活性化センターは大迫の中心にあるわけですね。せっかく改修するのであれば、例えば観光案内所という言い方はおかしいんですけども、そこに行って聞けば大迫のイベントがわかるとか、交通アクセスがわかるというような場所があったらいいなと常日頃思っております。

よそからいらっしゃった方が、例えば大迫交流活性化センターの窓口に来て、ガラス工房はどこか、ワイン祭とかひな祭りはいつどのように開催されているのか、開催時期になって、ポスターとか SNS 見てくださいというのは簡単なのですが、大きなイベントの他にも、例えば早池峰山への車両交通規制もバスのことをよくわからないで、なぜ、自家用車でいけないのかという方もいて、どこか 1 箇所そこにさえ行けば大迫の事がわかるという場所が欲しいと思っておりました。

また、権現様の展望台に行きたいけど、どう行くか聞かれて階段上っていけばいいと言っても、車で行きたいと言われたときの案内の仕方が分からない。大迫産直から見えるので、聞かれたときに産直の方が説明するより、大迫の事はそこに行けば分かるような窓口みたいなのがあって、そこから花巻に行く方法や宿泊施設まで案内していただけるようなものが大迫交流活性化センターの中にあったら嬉しいなと思っておりますが、今回の改修に盛り込むことはできないでしょうか。

**（熊谷会長）**

これは大迫総合支所長さん、お答えいただきたいと思ひます。

**（高橋大迫総合支所長）**

お答えいたします。

今のお話は全くそのとおりで、現在、観光案内所的な場所あるいはそれを広げたマップなど何点かはありますが、実際全てを網羅していないことが多くて、使いづらい面もあ

る事は承知しております。そういった部分については見直しが必要だと思いますけれども、観光の案内的には、隣の早池峰と賢治の展示館が指定されていることはあるんですけども、なかなかそれもPRがなく、おっしゃられたとおり、入口に観光案内所とか街中案内所的なものがあればいいなというのはわかります。

ただ具体的にはそれをどうしようかという答えは持ち合わせておりませんが、課題として認識しておりますことから、例えば町並み整備委員会等々で議論をしているところですので、そういった部分にも声掛けをしながら少し方向性を確定していきたいなと思っております。その上で今回の修繕という意味では、具体的に言うと多目的ホールの照明の部分の更新をするものでありまして、部屋を変えるとかということではなくて設備の更新ですから、その設備の更新に財源として、この過疎債を充ててなるべく早く更新をしようという思いから、計画を変更したところであります。その辺を理解していただいた上で、確かに大迫交流活性化センターを活用する意味では、いろいろやらなきゃいけないということはお話として承りましたので、まずは預からせていただきたいと思えます。

**(熊谷会長)**

その他ございますか。

**(菊池忠久委員)**

69 ページの表なのですが、令和3年から令和5年の下の方のセミナー参加の割合の部分が朱書きになっていますが、これは先ほどの答弁からすると、過去の目標値をそのまま計上するというのであれば、見直しではなくて黒数字になるかと思いますが、如何でしょうか。もう一つは、先ほどの小川委員の発言の中にもありました人口が減少すると統計上出てきたと言いながら、この令和6年、令和7年の指標に文化財に関する講座セミナー等への参加者が増えています。人口が減ってる中で上の表と同じような考え方をすると、かなりの参加率のパーセンテージが上がっていると思うが、本来人口が減ってくるならば、参加者数も同じ参加率であっても参加者数は減っていくと思いますが、その考え方はどうなのかお伺いします。

**(菊池秘書政策課長)**

令和6年度、令和7年度の指標でございますが、文化財に関する講座セミナー等への参加者数は、人口が減っていく中で比例して参加者数が減っていくのではないかとご指摘ですが、ここについては講座セミナー等への参加者数については、人口に比例するものではなく、あくまでも、こういったセミナー等への参加者を増やしていきたいという目標を掲げているものであります。

**(菊池忠久委員)**

黒字の間違いではないですか。

他の表はそのままなのに、ここだけなぜ直したのかという意味です。

**(菊池秘書政策課長)**

最初の方の質問でもこちらについては目標値ということでの説明をさせていただいておりました。

令和5年度までを計画期間とする第3期中期プランの中で、見直しを行っておりますの

で、中期プランの中で見直しが行われた結果、変わった目標値については、このように変更させていただいているということになります。

**(岩間総合政策部長)**

基本的には計画策定のときから目標値は動かさないということが原則なのですが、この目標値については、昨年度末までのまちづくり総合計画で期間を区切って中期プランとして運営してきましたが、その中期プランを毎年度期間で見直す際にどうしても目標値をそちらの方で見直してしまっている項目があります。その見直した項目がここの博物館の部分について、中期プランの目標で見直してしまったために、ここも変わったということで、朱書きとなったところでございます。

本来は一度立てた目標というのはそのまま継続していくものなのですが、中期プランでコロナの影響等もあって非常に目標と実績に乖離が生じているというようなことが出てきてしまった案件については、いくつか見直している項目がありまして、その中期プランの見直しがここに反映されて、朱書きということになっているものでございます。

**(熊谷会長)**

中期プランは毎年見直しをかけるのですか。

**(岩間総合政策部長)**

中期プランは3年3年4年で見直しを行ってきておりまして、第3期中期プランで最後の4年間の目標を定めることになっておりまして、その際に全体を見直していくということでございます。

**(熊谷課長)**

ありがとうございます。

菊池委員よろしいですか。

その他にご質問ございませんか。

それでは、ご質問等が出尽くしたようでございますので、意見をまとめることでよろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。今回の諮問については、原案を良とする旨、答申することとし、答申文につきましては、会長である私に一任いただきたいと思います。これにご異議ございませんか。

**(異議なしの声)**

ありがとうございます。

異議なしと認め、原案を良とする旨、答申いたします。

答申文案については会長に一任とさせていただきます。

以上で、花巻市過疎地域持続的発展計画の変更案についての諮問を終わります。

本日の議事案件は以上となります。

ありがとうございました。

**(菊池和子委員)**

どこでどのようにお話ししたらいいか迷ったので、すいませんがお時間いただければと思います。

大迫は、すごくイベントが多いのですが、そのイベントがある意味市民の方になかなか伝わりにくい。周知の方法をもう少し考えていただければと思います。

特にも去年は、国際交流でベルンドルフ市と友好都市を結んでいるのですが、ベルンドルフ市から来町されたはずですが、全然市民は分からなかったという状況もありましたし、どんなイベントをするにしても、ちょっと周知の時間が少ないのか、市民それぞれに行き渡らないのか、特にも高齢の方が多いので、ちょっと戸惑ったり、心配だという声がすごく多いです。もう少し住民への周知の仕方を考えていただきたいです。特にも去年のベルンドルフ市の件はショックだったらしく、以前は大迫に来る場合は、迎える準備を一生懸命行って、婦人部の方々にこんなことをやってみようとか考えながら準備をしたことがあったのですが、去年は全く分かりませんでした。

今はベルンドルフ市友好会とか、そういう一部の方々と、市の担当はわかっている、それだけの関係であり、以前は町民全体の関係でもあったので、もう少しその辺を考えていただいて、住民参加型のイベントをお願いしたいと思います。

#### (熊谷会長)

これは大迫総合支所長さんお願いします。

#### (高橋総合支所長)

ありがとうございました。

周知の方法についてですが、私どもとしてはホームページあるいは支所だより等々で周知を図っているところですが、それに加えてもっと徹底した周知をやってほしいというご要望だと思いますので、それについては承知いたしました。

今後はいろいろ工夫をして周知に努めてまいりたいと思っています。

国際交流のお話をいただきましたが、ベルンドルフ市の方が来たことの情報になかったという事ですけども、それについてお話の通り周知が足りなかったと思っています。ただし、去年のベルンドルフ市からの訪問は公式なものではなくて、全く私的なものであったので、私達も取り扱いに苦慮したところでもあります。もしこれが周年事業とかそういうものであれば違った取り組みをしていたわけですから、来の方々は全くの個人の団体だということなので、市では予算もなく、その上で対応したところありますので、ただ友好会の方々にはお手伝いをいただいて対応しましたし、私どもも街中によろこそベルンドルフ市の皆さんへとか周知をして歓迎のムードをしなければならなかったと反省はしておるところですが、そういった事情もあって、対応がまずかったということは事実でありますので、このところは反省をして、次回は来年ですが正式に来ますので、そのときには落ち度がないように対応してまいりたいと思います。

#### (佐藤地域振興課長)

ありがとうございました。4のその他になります。

事務局からは特にございませんが、皆様の方からございましたらお願いします。

#### (なしの声)

なしということで、以上をもちまして、令和6年度第1回花巻市大迫地域協議会を閉会

いたします。  
委員の皆様、大変ありがとうございました。

(熊谷仁見会長)  
以上で、本日の協議を終了します。

(4) 閉 会           (地域振興課長)